

# ミサゴ便り

平成 15 年 10 月 15 日発行

弓削野鳥の会編集発行

「空中散歩はトビに乗る」

平山和昭



(バードウォッチングの楽しみ  
方 その4)

9月の台風15号  
がこの地にさしたる  
被害をもたらさず関  
東地方に去った朝、  
三山に登った。すっ  
かり涼しくなり、機

を見るに敏なる空を翔ぶものたちは、台風の吹き戻しをも利用して移動をしているのではないかとおもったり、いやまあ、有り体にいえば時期尚早にもかかわらず性懲り無くオオルリの姿を求めてだが。車のラジオは台風の接近を緊迫した調子で告げている。もちろん関東地方のはなしだ。いま自分がいる場所は、前日の風と雨に洗われて綺麗に透き通った空気に満たされた空に、旭が輝いている。麓から立ち上ってくる心地よい風と、台風の余波、わずかな吹き戻しが、

木々の梢をゆさぶっている。山頂への道の途中に大きな木がある。その根方にたつて南を見下ろすと、谷の海に接するあたり大谷地区の数軒の人家の屋根が見える。見慣れた風景なのに今朝は異国のようだ。くだって海。それからはず〜っと燧（ひうち）灘が目路いっぱいひろがっている。海面は縮緬状のさざ波がプラチナ色に輝き、シルエットになった船が、実にゆっくりと行き交う。少しく風があり空気が澄んでいるので、対岸は



四国本土の新居浜、伊予三島、川之江がくっきりみえる。その距離およそ四十キロ。やがて気温が上昇すればヘイズがかかりそこは隠されてしまう。こうしてまれに晴れわたれば対岸は指呼の距離。見えるから行ける、行ってみようと、いにしえの人は小舟を漕ぎ出したにちがいない。初夏、ここをわたってきたオオルリやコマドリ、ハチクマ、サシバなどが南方の大陸へ帰り始める時季が来た。彼らはこの三山に旬日滞在しては飛び立っていく。対岸まで点々と島が散在しているゆえ、尾道・新居浜航路という瀬戸内海横断の巡航船があった。一日一往復。新居浜と尾道の間には、四坂島・魚島・高井神島・豊島・弓削島・因島・向島・と連なっており、その航路の

寄港地は、因島・弓削島・四坂島だったように覚えている。すでに四十数年も昔のことだ。山から見放ければ、鳥にとってもちょっと冒険したくなるコースではあろう。逆光にきらめく海をみていると、よし、きょうは腰を落ち着けじっくり待とうと言う気になった。

イスを運んできてスコープ、双眼鏡などをセットし深々と腰掛けると、もうすっかり極上の別荘に居るような気がしてくる。



とてもしずかだ。いや、ながい造船所勤めですっかり聴力が鈍になった耳に、在るはずの音がとどいてないだけだろう。それでも申し訳程度には、風のそよぐ音、草ずれ、残り蟬の鳴き声、時折かすめる蜂の羽音、飛び交うヒタキのかけ声、カラ類のつぶやきは届いてくる。いきなりけたたましいカラスのわめき声があがった。なんと百羽ちかくのカラスどもが下界から舞い上がってきたのだ。

ああでもない、かあでもないと目の前を右往左往してうるさいことこのうえなし。何があったのか知らないが、やがてそれらも去った。すると海を見下ろしている視野に、まことにきれいなトビが一羽す〜っと入ってきた。去年成人したか今年したか、その若いトビの羽

根には一枚の欠損もなく、なめらかな、そして、朝シャンをしてきたかのようなつややかさ。順光できれい、逆光でなおきれい。素晴らしいの一語に尽きる。いつもなら「なんだトビか」と目もくれぬところだが、あまりに見事なすがたに思わず双眼鏡に手が伸びた。

×10の視野に飛び込んできたトビの姿態は、神々しいほどなまめかしく、胸がきゅんとなる。まだ上昇気流が発生していないのかトビは、右に左に大きく羽を広げたまま目の下を行き来する。なんだ

か親指トムよろしく、トビの背中  
中にのって飛んでいるような心地  
がしてきた。トビの動きもリ  
ズミカルなので双眼鏡で追う、  
というより、いつのまにかトビ



と同じ心になっているようで視野から外れることがない。そうやって谷の梢から梢を、高くあるいは低くかすめるように翔び回ったのだった。空を翔ぶ。うん、あんがいカンタンカンタン。

後日談になるが、あのカラスめの大群は、カラス駆除のおしらせが人間界に伝えられた日でもあったようで、総会か代議員会を開いたのではなかろうか。彼らの文化もあなどれない所まで来ているらしく、少なくともコチラの情報は筒抜けだ。その証拠に毎回駆除の実

績はカラスの増減には何の影響もないといわれている。カラスに罪はなく、有罪はいつも力のある側に属する。

## 11・12・1月の探鳥会のご案内



- ※ 11月23日(日) (午前9:00 公民館集合) 引野方面
- ※ 12月7日(日) (午前9:00 公民館集合) 三山方面
- ※ 1月18日(日) (午前9:00 公民館集合) 狩尾・大谷方面

### 【自然観察記録等の投稿のお願い】

(自然観察に関する原稿、たとえば、鳥、植物、昆虫、魚、海藻等見たままの感想等お気軽にお寄せください。) 連絡先: 下弓削315、弓削野鳥の会事務局 (村上尚) Telfax 77-3607までお願いします。HP アドレス (<http://www2.dokidoki.ne.jp/pop0109/index.html>)